

令和5年11月8日
(2023年)

保護者のみなさま

吹田市立豊津中学校
校長 中西 多恵子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語

【調査結果より】

設問15問中、平均正答率が全国値を上回っていた設問は13問で、そのうち大きく上回っていたものは8問でした。

【概要】

本校生徒の平均正答率はほとんどの設問において全国値を上回っており、良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・すべての設問で正答率が全国値を上回り、言葉の特徴や使い方を理解し、文章に即して使用することができます。

情報の扱い方に関する事項

- ・すべての設問で正答率が全国値を上回り、良好な結果でした。

我が国の言語文化に関する事項

- ・ほとんどの設問において正答率が全国値を上回っています。
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分について、要旨を把握する設問の正答率は全国値をわずかに下回り課題があります。

話すこと・聞くこと

- ・ほとんどの設問において正答率が全国値を大きく上回り、良好な結果でした。
- ・情報を聞き取り、知りたい情報に合わせてコミュニケーションをとることができています。また、聞き取った内容をメモし、自分の考えを上手に表現できています。

書くこと

- ・すべての設問の正答率が全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。
- ・文章に即して自分の考えを適切に書くことができ、特に必要な情報を理解し、文章を整えて書くことができています。

読むこと

- ・半数の設問で正答率が全国値を上回り、残りの半数はやや下回っています。
- ・文章を読み、知識や経験に即して内容を読み取ることにやや課題があります。
- ・文章を読み、「なぜそのようになるのか」という疑問や根拠を明確にすることに課題が残ります。

【国語科における成果と今後の改善点について】

全体的な結果としては正答率が全国値を上回るものが多い結果となりました。しかし、自分で得た知識をいろいろな問題や場面等で活用・応用することに課題が残ります。知識をただ単に暗記するだけではなく、文章を書いたり他者とのコミュニケーションをとったりすることで表現し、日常生活で活かせるようにしたいと考えます。

また、日頃から自分の疑問点や根拠を明確にし、解決に導くプロセスを考えていけるように、他者の言葉を聞き、読み解く力を養う活動を授業で取り入れていきます。

●数学

【調査結果より】

設問15問中、平均正答率が全国値を上回っていたものは11問で、そのすべてが大きく上回る結果でした。

【概要】

本校生徒の平均正答率はほとんどの設問において全国値を上回り良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

数と式

- ・ほとんどすべての設問において全国値を大きく上回っています。
- ・問題場面における考察の対象を明確にとらえることにやや課題があります。

図形

- ・すべての設問において全国値を大きく上回り大変良好な結果でした。
- ・特に空間図形における平面のとらえと、構想に基づいて証明する問題の正答率が高くなっています。

関数

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り大変良好な結果でした。
- ・特に反比例はよく理解できています。

データの活用

- ・すべての項目において全国値を下回り課題が見られます。
- ・累積度数、四分位範囲の意味を理解することに課題があります。
- ・複数のデータの分布傾向を比較し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

【数学科における成果と今後の改善点について】

全体的に良好な結果となっており、基礎・基本に関しては、普段の学習の成果があらわれています。一方で、「データの活用」の領域の正答率が低いことから、複数の資料の比較、データの分析等を行う機会を設定し、他の生徒の説明を聞くことをとおして、多面的で多様な解釈ができることを知り、根拠とする事柄や統計的な表現についての理解を深めていく必要があります。目的に応じてヒストグラムや相対度数等の統計的な表現を用いてデータ傾向を読み取り、根拠を明らかにしてその結果を説明し合う活動を取り入れていきます。

また、「思考・判断・表現」の観点を問う問題に対して、苦手意識をさらに減らすために、授業において、自分の考えをまとめ、それを他者に伝え、それらをとおして自らの学びを深める活動を取り入れ、数学的な見方・考え方を働かせた課題解決の力を伸ばしていきたいと考えます。

●英語

【調査結果より】

設問17問中、すべての設問で平均正答率が全国値を大きく上回りました。

【概要】

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。

【各領域における成果と課題・指導改善のポイント】

聞くこと

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができていました。

読むこと

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。
- ・社会的な話題について、短い文章の概要をしっかりと捉えることができていました。

書くこと

- ・すべての項目において全国値を大きく上回り、大変良好な結果でした。
- ・記述式の解答形式の設問については、他の設問と比較すると更なる成長が期待されます。

【英語科における成果と今後の改善点について】

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべての領域で全国値を大きく上回っており、中でも「書くこと」の設問では、特に上回っている度合いが高く、普段の授業での活動の成果をみとることができます。日常的な話題について事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く課題では更なる成長が期待できるため、授業において、自分の考えとその理由を文脈に沿って適切に表現する課題に、今後も継続して取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【成果と課題について】

自分自身のこと・友人関係・規範意識

ほぼすべての項目で80%以上の肯定的回答が見られ良好な結果となっています。多くの生徒が「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「普段の生活で幸せな気持ちになる」と感じており、自己肯定感が高く、気持ちの安定が見られます。教職員に対して、「認めてくれる」「わかるまで教えてくれる」といった意識も高くなっています。「困っている人を助ける」「いじめ

は絶対にいけない」といった回答の割合も非常に高い結果となりました。

一方で、「将来の夢」については、全国を下回り、70%には至っていません。「困っていることを大人にいつでも相談できる」項目についても、全国値は上回るものの、70%未満となっています。

また「普段の生活の中で幸せなきもちになることはどれくらいありますか」という設問については、全国値をやや下回る結果となりました。この設問は、ウェルビーイング（心身の健康、持続的な幸福）に係る内容として新設されました。

生活習慣・学習状況・読書活動

基本的な生活習慣は、概ね身に付いています。平日2時間以上学習する割合が半数近くあり、全国値を大幅に上回っています。この割合は塾等に通う割合とほぼ同数となっています。「自分で計画を立てて勉強する」割合は60%弱と例年並みです。

「読書が好き」は全国値、また昨年度を上回り、良好な兆しが見えています。

地域・社会

地域行事等への参画機会が増え、特に「地域や社会をよくするために何かしたい」という気持ちは、昨年度と比較して倍増しています。外国に対するグローバル意識はとて高く、全国値を大きく上回る結果となりました。

ICT 機器

週1回以上タブレット PC を使う割合は85%近くあり、昨年度及び全国値を上回り、90%以上が役に立つと考えています。

言語活動・学習領域等

課題解決に向けて自分で考え取り組む、学んだことを生かし自分の考えをまとめる、授業では自分にあうものである、わからない点を見直し次につなげる、情報を集め整理して調べたことを発表する、互いの意見のよさを生かして解決方法を決める、話し合い活動に取り組む、といった項目の結果はすべて70～80%以上となっており、大変安定しています。自分の考えがうまく伝わるよう工夫することができれば、さらに言語活動が効果的なものとなります。

教科

85%前後の生徒が、国語・数学・英語が大切だと考え、英語の学習は将来役に立つと考える割合は90%にのぼっています。英語の授業内容についても、概要をまとめる、発表する、書く、意見を述べあうなどの活動がしっかりと行われていることがわかります。また、特に数学の授業は90%近くがよく

わかると回答しています。国語の調査では、記述式の問題に最後まであきらめず取り組む割合が80%と非常に高くなっていました。

3 今後の取組み

学力調査による教科に関する結果から、すべての教科の平均正答率は全国値を上回る良好な結果となりました。国語についてはほぼすべての設問で全国値を上回り、数学ではデータの活用を除くすべての設問で大きく上回り、英語ではすべての設問で大きく上回るという大変良好な結果となりました。各教科とも基礎基本をしっかりと身に付け、活用する力が培われています。

学習状況の調査の結果から、各教科に対する生徒の考え方として、学習することの意義や大切さを十分に理解し、真摯に問題解決に取り組むことができることがわかります。今後はさらに、その理解を深めるために、「わかりやすい」授業を目指すことを続け、「興味がわく」「好き」につなげたいと考えます。ICTも活用しながら、授業全体をとおして、特に考えを相手にわかりやすく工夫して伝える等の学習活動を継続的に行い、言語活動を軸にして生徒があきらめず自信をもって問題に取り組む姿勢を伸長させていきます。

基本的な生活習慣が身に付いており、自己肯定感が高い結果となり、日々の学校生活を安定した気持ちで送ることができている生徒の割合はとて高くなっています。毎日楽しい、幸せを感じることができている子供たちが多くいることは、我々教職員の励みにもなっています。身近に相談できる大人の項目については、現在、毎朝、デイケン（デイリー健康観察）の取組みを強化し、情報共有や分析に力をいれ、子供たちのSOSをキャッチする努力を続けているところです。

スマートフォンの項目については、今年度は削除されていたため、昨年との比較はできませんが、家庭での使い方は大丈夫でしょうか。チャットGPTなど、次々に新しいツールも登場し、自分の意思でデジタル機器を使いこなす必要性は高まる一途をたどっています。

幸い、家庭での学習時間は概ね確保できている結果となっていますが、将来にわたって役に立つ自己コントロール力を確実につけていきましょう。

心身の健康を第一に考え、「自ら学び、共に生きる、心豊かな、自立した生徒の育成」の実現にむけ、今後とも学校とご家庭が手を携えて子供たちの健やかな育ちと学びを支えられるよう、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。